

運営に関する計画

(作成・全体会)



大阪市立苗代小学校

令和7年4月

令和7年度 大阪市立苗代小学校学校経営の方針

苗代小学校教育目標

自主自立の精神に富む人間性豊かな子どもを育てる
～一人一人の笑顔が輝く苗代小学校～

自ら考え進んで解決する子ども

みんなで仲良く助け合い、高め合う情操豊かな子ども

自分の責任を重んじ、ねばり強くやりとげる子ども

進んで身体をきたえる健康な子ども

本年度の重点的取り組み

1 笑顔あふれる心豊かな体験の重視

すべての児童が、学校に行くのが楽しいと思えるような、笑顔あふれる取り組みを推進する。また、児童が将来の夢や希望持てるような道徳教育やキャリア教育の充実を図ることで、自己肯定感・自己有用感の改善に取り組む。

2 言語活動の充実と読解力の育成

主幹学校司書と連携を図り、教科学習とも関連させながら、読書活動のさらなる充実を図る。また、多読・速読、読み聞かせなど、豊かな読書活動をベースに言語活動の充実を図るとともに、読解力の育成につなげていく。

3 主体的・対話的で深い学びの実現

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を行うとともに、子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させる。また、学力向上に支援を要する子どもに対しても学習習慣や基礎学力の定着を図る。

4 SDGsの理念に基づいた教科横断的な学習の工夫

SDGsの理念に基づき、国際問題・環境問題・人権問題等に関心を持ち、自分にできることは何かを考え実行できる子どもの育成をめざし、教科横断的に取り組むようにする。また、大阪・関西万博のテーマ「いのち輝く未来社会をデザインすること」につなげていく。

1. 笑顔あふれる心豊かな体験の重視

- ・「やってみよう」「自分にもできる」と、将来の夢や希望を持ったり達成感を味わったりすることのできる取り組みを積極的に行う。
- ・自らがかけがえのない存在であると実感できるよう自尊感情を高めるとともに、他者を思いやる気持ちをはぐくむ。
- ・「気持ちの良いあいさつをする」「人に親切にする」「嘘をつかない」「ルールを守る」「勉強する」など、基本的モラルを身に付けさせるとともに、子どもたちが進んで生活をよくしていこうとする態度を養う。
- ・教職員が児童の状況を多面的に把握し、一人一人に寄り添ったきめ細かで包括的な支援を行えるよう、関係諸機関とも連携しながら組織的に取り組む。

2. 言語活動の充実と読解力の育成

- ・主幹学校司書との連携を図り、読書活動を充実させ、各教科等の学習を支える読解力・言語能力の育成のための実践を推進する。
- ・多読、速読、読み聞かせなど、豊かな読書活動を通して語彙を増やし、言語力の向上につなげ、相手に自分の思いを伝えるための表現力を身につけさせるとともに、積極的に発信していこうとする意欲を向上させる。また、文章を読んでその主旨をしっかりと読み取る学習を積み重ね、相手が何を伝えたいのかを言葉でとらえ、その思いを感じ取ることができるようとする。

3. 主体的・対話的で深い学びの実現

- ・思考力・判断力・表現力等の育成に向け「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に取り組む。とりわけ、子どもが「考え、議論する」ことのできる場を充実させ、相手の考えを聞き、自分の考えを相手に分かりやすく伝える力を育成する。
- ・1人1台端末を積極的に活用し、自主的な学びを推進するとともに、誰一人取り残さない学力の向上に取り組む。

4. SDGsの理念に基づいた教科横断的な学習の工夫

- ・持続可能でより良い世界をめざすSDGsの理念に基づき、「だれ一人取り残さない」「他者のために、地球のために一人一人が少しの努力をすること」などについて考え、計画・実行できる取り組みを実践する。その際、教科横断的な取組を工夫し、深く考え行動する力の育成につなげるようにする。
- ・2025大阪・関西万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」について考え、積極的に参画していく取り組みにつなげる。
- ・子どもたち一人一人が自分の得意なことで頑張ろうとする姿勢を積極的に認め、やる気を向上させることで苦手なことや今までやったことのないことにも挑戦させる。また、自分にできることを常に新しい発想で考え、実践していく態度を養う。

運営に関する計画

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は比較的落ち着いた地域にあり、家庭環境や生活環境に恵まれ、優しく穏やかな児童が多い。また、学力面においても、全国や大阪市の平均値を超えるレベルを維持している。しかしながら、主体的に考え、積極的に発言し、議論する活動を通して深い学びを得るという点に関しては、課題がみられる。また、自分で考えて行動すべきことが十分にできていない児童も多く、日々のトラブルは絶えない状況もある。互いに理解しあい認め合える場や、ほめあう言葉があふれる学級の雰囲気作りをする必要がある。

また、年々特別支援学級在籍児童や自閉的傾向の児童が増え、より児童理解を深めるための教員の資質向上や合理的配慮の必要性が高まっている。不登校児童数は微増傾向にあり、関係諸機関との連携も行なっているが、登校には至っていない児童もいる。登校につながる取り組みを継続して行う必要がある。校区的には区内の他の小学校からの距離が近いこともあり、学校選択制で選択されることが多い。様々な状況の児童が、互いに理解し認め合い、学び合う集団づくりの充実を通して、自己肯定感や学習意欲を高めていくことが重要である。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的な「思う」と回答する児童の割合を95%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
 - ・教職員の共通理解のもとチーム学校として関係諸機関と連携し、専門的な指導・相談に継続してつながっていけるようにする。
- 令和7年度の校内調査における「自分には良いところがありますか」の項目において、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を令和4年度より3%向上させる。
- 令和7年度の校内調査における「将来の夢や目標を持っていますか」の項目において、「あてはまる」と答える児童の割合を令和4年度より2%向上させる。
- 多文化共生・人権尊重の感覚を身につけ、自分も大切にし、他人を尊重する児童を育て、令和7年度の校内調査の「友だちの気持ちを考え、友だちを大切にしている」の項目において、「あてはまる」と答える児童の割合を令和4年度より向上させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。
- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。

○ 令和7年度の校内調査における「学習や活動で自分の考えを積極的に発言できたか」の項目において、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を令和4年度より3%向上させる。

○ 令和7年度の校内調査における「SDGsの考えを理解し、自分にできることをしようとしていますか」の項目において、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を令和4年度より3%向上させる。

○ 体育科において、系統的な指導を重視した授業改善をすすめ、児童の運動能力の基礎作りを行い、令和7年度の「体力総合点」で本市平均を上回る。

○ 令和7年度の校内調査における「自分の健康に気をつけていますか」の項目において、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を令和4年度より3%向上させる。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1※を満たす教職員の割合を60%以上にする。

※基準1：次のア及びイの基準を満たすこと

ア：1か月の時間外勤務時間が45時間を超えないようにすること

イ：1年間の時間外勤務時間が360時間を超えないようにすること。

○ 令和7年度の校内調査における「1人1台端末を有効に活用できましたか」の項目において、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を令和4年度より3%向上させる。

○ 令和7年度の学力経年調査における「読書は好きですか」の項目において、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合をそれぞれの学年で90%以上にする。

○ 令和7年度の校内調査における「学校で図書館に行く時間が好きですか」の項目において、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。

○ 児童理解を深めることを通して、支援が必要な児童・家庭を把握し関係諸機関と連携することで学びを支える環境づくりをすすめる。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的な「思う」と回答する児童の割合を95%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
 - ・教育支援センターなど学校内外の専門的な指導・相談につなぐ。またつながっている場合は、継続して取り組む。
- 令和7年度の校内調査における「自分には良いところがありますか」の項目において、肯定的に回答する児童の割合をそれぞれの学年で90%以上にする。
- 令和7年度の校内調査における「将来の夢や目標を持っていますか」の項目において、「あてはまる」と答える児童の割合を75%以上にする。
- 多文化共生・人権尊重の感覚を身につけ、自分も大切にし、他人を尊重する児童を育て、令和7年度の校内調査の「友だちの気持ちを考え、友だちを大切にしている」の項目において、「あてはまる」と答える児童の割合をそれぞれの学年で75%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を55%以上にする。
- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- 令和7年度の校内調査における「SDGsの考えを理解し、自分にできることをしようとしていますか」の項目において、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合をそれぞれの学年で90%以上にする。
- 体育科において、系統的な指導を重視した授業改善をすすめ、児童の運動能力の基礎作りを行い、令和7年度の「体力総合点」で本市平均を上回る。
- 令和7年度の校内調査における「自分の健康に気をつけていますか」の項目において、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

●授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。

●第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1※を満たす教職員の割合を60%以上にする。

※基準1：次のア及びイの基準を満たすこと

ア：1か月の時間外勤務時間が45時間を超えないようにすること

イ：1年間の時間外勤務時間が360時間を超えないようにすること。

○朝学習の時間帯に、デジタル教材を活用した取組を週に2回は取り組む。

○令和7年度の小学校学力経年調査における「読書は好きですか」の項目において、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合をそれぞれの学年で90%以上にする。

○令和7年度の校内調査における「学校で図書館に行く時間が好きですか」の項目において、「あてはまる（どちらかいえばあてはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

大阪市立苗代小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】	
<ul style="list-style-type: none"> ●小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的な「思う」と回答する児童の割合を95%以上にする。 ●年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 ●年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・教育支援センターなど学校内外の専門的な指導・相談につなぐ。またつながっている場合は、継続して取り組む。 ○令和7年度の校内調査における「自分には良いところがありますか」の項目において、肯定的に回答する児童の割合をそれぞれの学年で90%以上にする。 ○令和7年度の校内調査における「将来の夢や目標を持っていますか」の項目において、「あてはまる」と答える児童の割合を75%以上にする。 ○多文化共生・人権尊重の感覚を身につけ、自分も大切にし、他人を尊重する児童を育て、令和7年度の校内調査の「友だちの気持ちを考え、友だちを大切にしている」の項目において、「あてはまる」と答える児童の割合をそれぞれの学年で75%以上にする。 	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗状況
取組内容①【2 豊かな心の育成（道徳教育の推進）】 <ul style="list-style-type: none"> ・朝の会や終わりの会、学級会などの互いに認め合える活動を設定し、特別な時間でなくてもほめあう言葉が行きかうような学級の雰囲気づくりをする必要がある。 	
指標	
<ul style="list-style-type: none"> ●令和7年度の校内調査における「自分には良いところがあると思いますか」の項目において、肯定的に回答する児童の割合をそれぞれの学年で90%以上にする。 	
取組内容②【2 豊かな心の育成（キャリア教育の充実）】 <ul style="list-style-type: none"> ・夢授業や出前授業、社会見学など、体験的な学習に継続して取り組み、新たな出会いや将来について考える機会を充実させていく。 	
指標	
<ul style="list-style-type: none"> ●令和7年度の校内調査における「将来の夢や目標を持っていますか」の項目において、「あてはまる」と答える児童の割合を75%以上にする。 	
取組内容③【1 安全・安心な教育環境の実現（いじめへの対応）】 <ul style="list-style-type: none"> ・「いじめについて考える日」の取組だけでなく、学年や異学年での様々な活動や様々な体験学習や出前授業を通し、相手のことを考え尊重しあえる大切さを自覚させ、互いに認め合い支え合い高めあえることのできる集団を各学年の発達段階に応じて育成する。 	
指標	
<ul style="list-style-type: none"> ●多文化共生・人権尊重の感覚を身につけ、自分も大切にし、他人を尊重する児童を育て、令和7年度の校内調査の「友だちの気持ちを考え、友だちを大切にしている」の項目において、「あてはまる」と答える児童の割合をそれぞれの学年で75%以上にする。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	

今後の改善点

大阪市立 苗代小 学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】	
<ul style="list-style-type: none"> ●小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。 ●小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。 ●小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。 ○令和7年度の校内調査における「SDGsの考えを理解し、自分にできることをしようとしていますか」の項目において、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合をそれぞれの学年で90%以上にする。 ○体育科において、系統的な指導を重視した授業改善をすすめ、児童の運動能力の基礎作りを行い、令和7年度の「体力総合点」で本市平均を上回る。 ○令和7年度の校内調査における「自分の健康に気をつけていますか」の項目において、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。 	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【4 誰一人取り残さない学力の向上（個別最適な学びの充実）】 ・主体的・対話的で深い学びの視点から、一人一人の問題意識に沿った課題解決型の学習の設定や、1人1台端末の活用といった「個別最適な学び」を充実し、児童の基礎的な知識及び技能の習得及び、思考力・判断力・表現力の育成を目指す。	
指標 <ul style="list-style-type: none"> ●小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度以上にする。 	
取組内容②【4 誰一人取り残さない学力の向上（協働的な学びの充実）】 ・主体的・対話的で深い学びの視点から、各学年での交流における目指す姿を校内で共有し、その達成に向けて交流の形を工夫することで「協働的な学び」を充実し、学習の中での児童間の互いの立場や考え方を尊重した対話の実現を目指す。	
指標 <ul style="list-style-type: none"> ●令和7年度の校内調査における「友だちの話を聞いたり、自分の考えを話したりして、考えを深めたり、広げたりできている」の項目において、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を85%以上にする。 	
取組内容③【4 誰一人取り残さない学力の向上（理科教育の充実）】 ・理科に興味を持ち、理科の面白さを実感したり、理科の良さを生活や学習に活用しようとしたりする態度を養う。	
指標 <ul style="list-style-type: none"> ●令和7年度の小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。 	

取組内容④【誰一人取り残さない学力の向上（主体的・対話的で深い学びの推進）】

- SDGs の理念に基づき世界のことや環境問題・人権にかかる問題に关心を持ち、自分にできることを考え実践していこうとする意欲を高め、より良い未来の自分について考えられる児童を育てる。

指標

- 令和 7 年度の校内調査における「SDGs の考えを理解し、自分にできることをしようとしていますか」の項目において、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合をそれぞれの学年で 90 %以上にする。

取組内容⑤【5 健やかな体の育成(体力・運動能力向上のための取組の推進)】

- 新体力テストの結果を分析し、運動能力の向上を図るため、目標をもって体力向上に取り組める児童を育てる。

指標

- 体育科において、系統的な指導を重視した授業改善をすすめ、児童の運動能力の基礎作りを行い、令和 7 年度の「体力総合点」で本市平均を上回る。

取組内容⑥【5 健やかな体の育成（健康教育・食育の推進）】

- 自分の健康や体に关心を持ち、自ら進んで健康的な生活を送ろうとする児童を育てる。

指標

- 令和 7 年度の校内調査における「自分の健康に気をつけていますか・けがをしないよう気を付けている」の項目において、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を 90 %以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

今後の改善点

大阪市立 苗代小 学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>●授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。</p> <p>●第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1※を満たす教職員の割合を60%以上にする。</p> <p>※基準1：次のア及びイの基準を満たすこと</p> <p>ア：1か月の時間外勤務時間が45時間を超えないようにすること</p> <p>イ：1年間の時間外勤務時間が360時間を超えないようにすること。</p> <p>○デジタル教材を活用した取組を週に1回は取り組む。</p> <p>○令和7年度の小学校学力経年調査における「読書は好きですか」の項目において、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合をそれぞれの学年で90%以上にする。</p> <p>○令和7年度の校内調査における「学校で図書館に行く時間が好きですか」の項目において、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。</p>	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【6 教育DXの推進（ICTを活用した教育の推進）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GIGAスクール構想のもと、1人1台端末を積極的に活用する。 	
<p>指標</p> <p>●授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。</p>	
<p>取組内容②【6 教育DXの推進（ICTを活用した教育の推進）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業時間外の自学自習の習慣の基礎を身につけるため、授業でデジタル教材を活用するだけでなく、自学自習に取り組み、デジタル教材の活用の習慣化を図る。 	
<p>指標</p> <p>●デジタル教材を活用した取組を週に2回は取り組む。</p>	
<p>取組内容③【8 生涯学習の支援（学校図書館の活性化）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主幹学校司書を活用し読書活動の充実を図るとともに、図書委員会とも連携しながら様々な形態での読み聞かせ活動を充実させることで、自尊感情を高めたり、聞く力を育てたりして、読書が好きな児童を育てる。 	
<p>指標</p> <p>●令和7年度の学力経年調査における「読書・読み聞かせは好きですか」の項目において、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合をそれぞれの学年で85%以上にする。</p>	
<p>取組内容④【8 生涯学習の支援（「大阪市子ども読書推進計画」に基づいた取組）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館の教科学習での活用を図り、調べ学習の充実や発展的な学習につなげることで、子どものニーズに応える図書館運営を行い、図書館の積極的活用をすすめる。 	

<p>指標</p> <p>●令和7年度の校内調査における「学校で図書館(ちょっと図書館)で過ごす時間が好きですか」の項目において、「あてはまる(どちらかといえどあてはまる)」と答える児童の割合を85%以上にする。</p>	
<p>取組内容⑤【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり(ワーク・ライフ・バランスの推進)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・退勤時間の努力目標として、平常の日は7時、ゆとりの日は5時を退勤時間の努力目標とし、時間外勤務時間の割合の減少を図る。 	
<p>指標</p> <p>●月ごとの時間外勤務時間が45時間以上である教員の割合を前年度より減少させる。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>今後の改善点</p>	